

Song Review 6 #ヘイ、ジュード

『#ヘイ、ジュード』(1968年)を取り上げる。ビートルズの「ヘイ・ジュード (Hey Jude)」は、1968年にリリースされた彼らの代表的なバラードで、ポール・マッカートニーがジョン・レノンの息子ジュリアンを慰めるために書いた曲である。

Hey Jude, don't make it bad
Take a sad song and make it better
Remember to let her into your heart
Then you can start to make it better

(なあジュード、悪く考えないで

悲しい歌も、良く感じてみて

彼女を心の中に受け入れて

そうすれば、うまく行き始めるから)

このように、個人の苦しみを乗り越える力を優しく語りかけるスタイルである。

チェコスロヴァキアではこの「ヘイ・ジュード」をマルタ・クビシェヴァー (Marta Kubišová) が単なるカバーではなく、抵抗と希望の歌に変えた。

1968年、チェコスロヴァキアでは「プラハの春」と呼ばれる民主化運動が起こっていた。しかし、同年8月にソ連を中心とするワルシャワ条約機構軍が侵攻し、運動は弾圧された。この時期、彼女は、TVドラマの挿入歌「マルタの祈り」で人気を博し、自由の象徴的存在であった。ビートルズの「ヘイ・ジュード」をチェコ語でカバーし、アルバム『ソング・アンド・バラード』の冒頭に収録した。歌詞は自由と連帯、希望を訴える内容に再構成された。

「ジュード、あなたには歌がある
みんながそれを歌うと、あなたの目が輝く
そしてあなたが静かに口ずさむだけで
聴衆はあなたに引きつけられる・・・」

この歌詞は、個人の苦悩を超えて集団的な希望と勇気を呼び起こすものであった。「ヘイ・ジュード」はチェコで不滅のプロテスト・ソングとして受け継がれた。彼女は「二千語宣言」への署名を拒否し続けたため、1970年に音楽活動を永久追放された。彼女のレコードは発売禁止、所持も聴取も禁じられました。しかし、1989年の「ビロード革命」後、彼女は再び公の場に登場。「ヘイ・ジュー

ド」は革命の象徴として再び歌われ、自由の勝利を祝う歌となった。
このチェコ語版「ヘイ・ジュード」は、単なる翻訳ではなく、文化的・政治的な
意味を帯びた再創造であった。彼女の歌声は、民衆の心に希望の火を灯し、非暴
力による抵抗の象徴となった。

評価：★★★★★